

道北地域の景気の悪化ペースは緩やかになっています

皆さん、いつもこのサイトをご覧いただき、ありがとうございます。

さて、7月1日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断について「低迷している」として、前月まであった「厳しさを増しており」との表現を削除しました。道北地域の景気は全体として「低迷している」中ではありますが、これまでのようにどんどん悪くなっている訳ではなく、全体としてみると悪化のペースは緩やかになっているということです。

このように判断した理由を述べます。

まずは、公共投資が基調として持ち直していることです。補正予算の効果から、このところ道北地域においても公共工事が前年を上回る水準で推移しています。また、21年度予算の前倒し執行も認められます。このため、公共投資の判断を先月「持ち直しの兆しが窺われる」から「持ち直している」に上方修正し、今月もそうした方向性に変化はないと判断しました。

二つ目は、全ての業種ではありませんが、一部業種・製品の生産が下げ止まりつつあることです。具体的には、電子部品関連では携帯電話向け部品を中心に生産が大幅に悪化したあと、下げ止まりつつあります。

三つ目は、同じく7月1日に公表しました「[短観（道北地域）](#)」結果をみると、企業の景況感をはじめとした各種判断D.I.のこれまでのような大幅な悪化傾向に歯止めがかかり、下げ止まりつつあることです。

もっとも、個人消費は厳しい状況が続いていますし、設備投資、住宅投資も大幅な減少が続いています。加えて、雇用環境は一段と厳しさが増えています。こうした現実には冷静に直視する必要がありますが、一部先行きに変化の兆しが見えてきたといったところでしょうか。

いくつかお知らせがありますので、[こちら](#)もご覧ください。

平成 21 年 7 月 1 日
尾家 啓之